

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901956
法人名	医療法人 ながら医院
事業所名	グループホーム月華
所在地	福岡県福岡市博多区比恵町12番21号
自己評価作成日	平成24年 2月 16 日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成24年3月5日	評価結果確定日	平成24年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の残存機能の維持ができるよう、個人に合ったケアを行い、その人らしい毎日が過ごせるように、寄り添い、笑顔、安らぎのあるケアを実施している。母体に医院との密接な協力体制が出来ており、緊急時に迅速な対応を取る事ができる。また、両ユニットには、看護職員を配置して健康管理を行っている。看取りについては、定期的に研修や話し合いを行い、利用者や家族の意向を踏まえ、その方らしい最後が向かえられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員はホーム理念を基に、健康面でのサポートを第一に、笑顔で楽しく過せるようにお手伝いをさせていただくという気持ちで利用者のケアにあたっている。ホームでの様子を家族に知らせる「フラワームーン通信」には、利用者の写真と様子を書き込んで送付している。職員は内部研修の他、外部研修にも積極的に参加して個人毎に受講した研修を記録し、様々な研修を交替で受講している。母体が医療機関であり、24時間オンコールで連携がとれている。また、スタッフには3名の看護師がいるため、日常の健康面、重度化や終末期のケアも含め、家族は安心している。運営推進会議の開催回数や行政不参加などの課題はあるが、現実を踏まえ前向きに検討しており、今後も期待できるホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を館内に掲示している。会議の時に理念について話し合い、日々の支援を通じて理念に基づいたサービスの提供ができるように取り組んでいる。各自名札の裏に遂行している。	各ユニットの玄関とスタッフルームに理念を掲示し、毎日目に見えている。毎月の全体会議において理念「住みなれた所でなじみの人たちと生活し、健康でいつもの1日が送れる楽しく笑いの絶えないグループホームを目指します。」を確認し、利用者の健康維持を第一に考え、変化を見落とさず早急な対応を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃や夏祭り、近所の幼稚園の運動会に入居者と参加している。また、ホームでの夏祭りやクリスマス会など地域の方々に案内を行い参加してもらっている。	建物1階に併設されている地域交流センターでは、毎週水曜日に「月華の会」を開催している。ボランティアの方や地域の方によるレクリエーションや季節にちなんだ催しが行われたり、ホーム内の季節の飾りつけなども協力してもらったりしている。また、介護予防教室も開催され、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1階の地域サロンで行われている介護予防教室や転倒予防教室に職員が参加し、認知症についての話しをする場になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容や評価への取り組みについて報告し、地域の方々と意見交換を行ってサービスの向上に努めている。	会議では運営状況や外部評価の報告がされている。年2回の開催で、福岡市職員や地域包括支援センター職員といった行政への開催案内はしているものの、オープン当初より行政の参加が1度もない。	前回の評価において改善項目となっていた隔月開催に向けての取り組みと共に、行政へ会議に参加してもらえるよう日程調整の方法等運営推進会議を活性化するために職員全員で取り組まれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や入居に関する事について行政担当者に連絡を取り相談を行っている。	市の担当者とは、利用者の成年後見制度利用時や日常的な細かい事も電話にて相談するなど、協力関係ができています。地域包括支援センターとは、空き状況の問い合わせがあるなど協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員とカンファレンスを行い意識統一を図っている。身体拘束排除について定期的に勉強会を行っている。拘束しない安全で自由な暮らしの取り組みを考えながら行っている。	生命の危険などの緊急時を除き、身体拘束をしない旨を契約書に謳っている。身体拘束をしないケアについて、内部研修や外部研修で勉強し、見守るケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し全体会議の場で勉強会をしたり報告をしている。虐待の認識を持たせ防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や後見人制度については、勉強会や研修参加を行い制度の内容を学習する機会を作っている。	現在3名の方が成年後見制度を利用されており、職員も実例をもとに制度についての理解を深めている。外部研修の参加および内部研修も開催しており、職員は資料を基に説明できる状態である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすい言葉で納得されるまで説明を行っている。話しやすい雰囲気を作り理解を努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置を行い、面会時や家族会を利用して、家族からの意見や思いの表出に努めている。苦情発生時は、管理者に報告を行い、苦情対策委員会で検討し今後のサービスの反映に繋げている。	スタッフルーム前に苦情箱を設置しているが、1度も投書はない。家族会で出た質問や意見は全体会議やユニット会議において協議検討している。アンケート調査も行い、家族の意見を吸い上げている。	形式は違うものの、毎年アンケート調査をし、家族の意見を受け入れようとする体制ができていますので、今後もより多くの意見や要望を出してもらえるように継続していくことを期待する。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談などで運営についての意見を聞き反映させている。	各職員が苦情対策・事故対策・給食・物品の委員になっており、各担当より毎月の全体会議及びユニット会議において提案や意見を出している。また、管理者との個人面談もあり、業務や人間関係についての意見を出す場も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務では、希望休を設け、職員の勤務体制に無理がないようにしている。職員の意向を重視しながら、資格に向けた支援も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用では、年齢や経験の有無については、制限を設けていない。面接時に職場体験を実施し、本人の意欲や理念への共感、夜勤を含めて勤務が可能か考慮し、本人の意思を確認した上で採用を決めている。	未経験者も含め、20代から60代の方が勤務している。前回の改善項目については、各ユニットに男性職員を採用し、目標を達成している。男性職員が加わった事により、ホーム内の雰囲気の良い方向に変わっている。個々のスキルアップに対しては、研修に参加しやすいよう勤務体制を考慮するなど協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止法や成年後見制度、高齢者の権利擁護及び人権学習について内部研修や院内研修に位置づけ入居者への対応や尊厳など日々の業務に反映できるようにしている。	利用者のプライバシーや尊厳を守ること、身体的、精神的な高齢者虐待について、スタッフは常に認識を持つよう毎月研修を行っている。また、ケアする側の職員のストレスに対しても配慮している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ながら医院での研修や外部研修に参加している。受講後は、報告会を行い知識の向上共有に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し研修などに参加している。他事業所との情報交換など交流の機会を通じてサービスの向上に活かすようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問時の情報や担当ケアマネジャー等からの情報を聞いたうえで家族・ご本人の希望を取り入れ安心して介護がうけられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に必ずホームの見学をしてもらい、来られた時によく話を聞くようにしている。入居申込書に希望や要望の記入欄を設けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の生活環境や身体状況などの情報収集を行い、必要とする支援を見極めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事を一緒に行うことで馴染みの関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事の案内状を配布し参加を促している。面会時には生活の様子を報告し家族の想いや要望を聞くようにしている。		
22	(11)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人や近隣の方にも面会に来て頂き、外出、外泊が出来るように支援している。	携帯電話を使用されている方は、ご自分で花屋や八百屋に電話し配達をお願いされることもある。毎年、年賀状を親しい方へ出したり、遠方の家族へ手紙を書くなどの支援を継続している。	
23		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性を考慮して座席の配置を決め、孤立しないようにしている。隣のユニットで体操やレクリエーション等入居者同士が関わる時間も大切にしている。		
24		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ハガキや電話などで連絡を取ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、入居者の言動や潜在能力にも着目して記録し情報を共有している。	利用者・家族の思いや意向を記録した情報を共有するセンター方式を使用し、話された言葉をそのまま細かく記入することで整理している。また、他の職員の気づきや知り得た情報も書き加えるようにしており、早い段階での意向の把握に努めている。	
26		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し、本人や家族の会話の中から情報を聴取している。介護記録やアセスメントを読み把握している。		
27		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者を観察し、心身の状態や残存機能などを申し送り、ケアカンファレンスを通じて把握している。状態変化のある時は、その都度ケア方法を確認し、早期に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が入居者や家族の意見を把握したうえでモニタリングを行ない介護計画を作成している。利用者本位の介護支援や残存能力の維持など本人のニーズが反映されるよう話し合いをおこなっている。	モニタリングは担当職員が行い、それをユニット内で話し合っって計画を作成している。6カ月に1回見直しているが、状態によりその都度見直し、変更している。理学療法士や作業療法士の意見も取り入れて作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートに詳細を記録し申し送りにて情報を共有している。実践した結果に基づき介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族との時間や関わりがもてるように柔軟な対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティアの受入を行っている。行事の際は地域ボランティアに参加して頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に主治医の継続と協力医療機関の利用についての確認を行い、本人、家族の意向に沿って支援している。訪問診療や受診の際は、看護職員が付き添いを行っている。	経営母体である医院による訪問診療が月2回ある。24時間オンコールで連絡が取れる体制が出来ている。他科への通院は、基本的には家族が付き添うが、無理な場合は看護職員が付き添っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤している。母体の医院の看護師や訪問看護師と常にコミュニケーションを取り、日常生活の中でとらえた変化や異常を的確に判断し、必要に応じて病院受診し、適切なケアが受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族と連絡をとり状態を把握している。退院後すぐ対応ができるよう医療連携室や医師と連絡を取り、話し合いや情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合の指針に同意を頂いている。入居者の状態の変化に伴い段階的に家族と話し合い、今後の意向の確認やケアの方針を検討し、共有しながら取り組んでいる。	現在までに3度の看取りを経験をしており、体調変化に合わせ、医師や家族を交えて方針を共有する体制にある。その経験を活かし、ホームでできる事、病状が急変する可能性がある事を伝え、「重症化した場合の対応についての同意書」をもらっている。職員への配慮もあり、可能なかぎり夜勤帯に看護師を配置できるような工夫もしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の勉強会や研修を定期的に行ない実践できるように努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行い全体会議においても災害時の対応方法を説明し共有している。	毎年2回、業者の防災器具点検時に夜間を想定した避難訓練を行い、消防署への通報や利用者の誘導訓練をしている。町内会長を通じて地域の方へ災害時の協力も呼び掛けているが、積極的な参加が得られていない。水・缶詰・ビスケット・チョコレートを備蓄している。	現在まではホーム独自の訓練なので、適切なアドバイスを受けられるよう消防署に訓練参加の働きかけおよび地域の方へ災害時の協力要請の継続を期待する。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や生活背景を把握し、尊厳を傷つけないように言動や態度には気配りを行っている。	内部研修や全体会議の中で利用者への言葉使い、口調、考え方について話し合っている。会話が固くなり過ぎないように方言を交えながら話をし、利用者との距離感を大切にしている。ケア中に不適切な言動などが見られた場合、管理者およびユニットリーダーがその場の様子を見ながらアドバイスをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや訴えに耳を傾けて、わかりやすい言葉で説明を行ない、本人の意思で決定できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の心身状態、希望に応じ入浴やレクリエーションを促している。本人の意思を一番に考え支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月希望者には、訪問美容を利用してほしい好みに応じてカラー・カット・パーマを行っている。更衣については、本人の好みの服を聞きながら選んでいる。マニキュアや化粧を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の有する能力に応じ配膳や後片付けを職員と一緒にしている。職員は入居者と同じテーブルで同じ物を取り会話をし楽しみながら食事をするようにしている。	食材配達業者を活用しながら、調理や盛り付けをスタッフと利用者で行っている。利用者みんなで食事を楽めるように働きかけ、配膳や食器拭き、後片付けも可能な限り一緒に行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は、定期的に行なっている。水分摂取量が少ない方には、チェック表を使用している。嚥下の悪い方には、トロミ剤を使用し水分を確保している。また本人の好まれる飲み物も提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行っている。その方に応じて舌ブラシや綿花、口腔ケア用スポンジなどを使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するために毎日チェック表を記入している。排泄の自立を維持するために、その方に応じた時間誘導を行っている。	無理な誘導はせずに利用者からの訴えを待つという方法を取り始めてから、成果が出ている。入居時には失禁が多かった方も現在は改善され、ほとんど無くなったケースもある。看護師は水分チェックをしながら、排泄のコントロールをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、バランスのとれた物を提供し、栄養の偏りのないようにしている。毎日体操を行ったり、入浴中に腹部マッサージも行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽めるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、本人の希望と合わない時は曜日を変え対応している。入浴を拒否された場合は順番を変えたり時間を置いて対応している。	曜日を決めて2日に1回の入浴である。自分で入浴される方に関しては、職員が脱衣所からさり気なく見守りをしている。気持ちよく入浴していただくために、入浴剤や花びらを散らすなどの工夫をしている。横になったまま入浴できる特殊浴もあり、安心して利用されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じ昼間でも短時間横になる時間を作ったり、本人から休みたいと訴えがあった場合は夜間の睡眠に支障がない範囲で休んでもらっている。又空調を整えるなど安眠の為の環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・用法・副作用などは、入居者の薬管理簿にまとめてわかるようにしている。その日の薬は、ホワイトボードに貼り付け飲み忘れがないようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味や得意な事を探し、編み物、工作、歌を唄うなどスタッフと一緒にやっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出計画をたてて取り組んでいる。地域の商店街、買物、散歩等の個別対応も行っている。	毎年5月と10月はユニット毎に福岡タワーやアイランドパーク、空港などに外出をしている。その内1回は家族にも参加していただいている。4月には花見、1月は初詣と、季節にあった外出もしている。日常では、散歩しながら近くの山王神社や公園、パン屋などに行っている。また、ゆめタウンに買い物に行くこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、少量の小銭を財布に入れて自己管理で管理してもらっている。本人と同伴し買物の支払は領収書を必ず受け取っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話管理を行っており、本人にかけてもらっている。手紙を書くよう促し、書くのが困難な方は代筆している。毎年、家族宛の年賀状を入居者の方に書いてもらえるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇に咲いた花を、リビングのテーブルに飾っている。季節を感じさせる装飾を入居者と一緒に作成し飾っている。芳香剤をトイレ内に置きこまめに換気を行っている。	近隣にはビルやマンションが多いが騒音はなく静かで、窓から自然の光も取り入れられている。廊下や浴室、トイレが広く、ケアが行いやすくなっている。温度計がいくつか掛けてあり、リビングや廊下の温度管理もされている。リビングには腰かけるのにも丁度良い畳のスペースがあり、利用者が作ったお雛様が飾られ、その前で洗濯物をたたむなど生活感が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファを設置しており自由に好きな所で過ごせるよう空間を造っている。。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時からなじみの家具や生活用品を持ってきて頂く様にしている。本人が家族にようぼうを聞き本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	利用者が作られたフォトプレートにご自身の写真を入れ居室の入口に掛けてある。居室にはベッド、エアコン、カーテンが備え付けてある。洋服ダンスやテレビ・ポールハンガーなど、利用者それぞれの使いやすいものを持ち込んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口が分かりやすいように飾りをつけたり、トイレは大きな文字で表示している。		